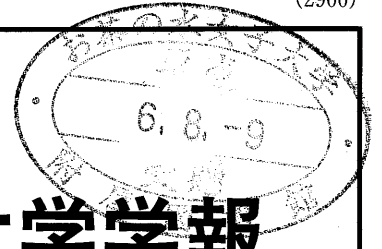


第159号



お茶の水女子大学学报



平成 6 年 7 月 1 日
お茶の水女子大学庶務課

目 次

- ◇ 関係法令 1
- ◇ 人 事 2
- ◇ 学 内 規 則 3
 - お茶の水女子大学大学院規則の一部を改正する規則 3
- ◇ 学 事 5
 - 学位記授与式について 5
 - 平成 7 年度お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）学生募集要項について 6
- ◇ 諸 報 13
 - 研 修 13
 - 海外渡航 13
 - 訃 報 14
- ◇ 日 誌 15

関係法令

【法 律】

- 国立学校設置法の一部を改正する法律（法律第32号、5月20日官報）
- 障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律（法律第38号、6月22日官報）

【省 令】

- 文部省定員規則の一部を改正する省令（文部省令第11号、5月20日官報）
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（文部省令第12号、5月20日官報）
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（文部省令第13号、5月20日官報）

【告 示】

- 日本育英会法施行令の規定による試験所、研究所又は文教施設として指定した件（文部省告示第70号、5月20日官報）
- 日本育英会法施行令の規定による研究所等を指定した昭和29年文部省告示第89号等の一部を改正する件（文部省告示第71号、5月20日官報）
- 大学等における遺伝子治療臨床研究に関するガイドラインを定める件（文部省告示第79号、6月9日官報）
- 大学等における組換えDNA実験指針の一部を改正する件（文部省告示第80号、6月9日官報）
- 平成6年度学校図書館司書教諭講習実施要項を定める件（文部省告示第81号、6月14日官報）

人 事

◎常勤職員

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	異動区分	異動前の所属・官職
6. 6. 3	尾 田 幸 雄	附属幼稚園長事務代理(命)	公の名称	(文教育学部教授)
6. 6.12	尾 田 幸 雄	附属幼稚園長事務代理(免)	”	”
6. 6.24	竹 尾 富 貴 子	教授(理学部)	昇 任	助教授(理学部)
”	浅 本 紀 子	助教授(理学部)	”	助手(理学部)
”	川 田 垂 矢 子	助手(理学部)	”	理学部教務職員

◎非常勤職員

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	期 間	備 考
6. 4.30	木 村 く に 子	辞職承認		生活科学部
6. 5. 1	柴 佳 世 乃	教務補佐員(文教育学部)	6. 5. 1~7. 3.31	
”	馬 場 慶 子	”	”	
”	中 村 臨 子	”	”	
”	谷 澤 容 子	教務補佐員(生活科学部)	”	
6. 6. 1	柳 町 貴 乃	事務補佐員(学生課)	6. 6. 1~7. 3.31	
”	吉 澤 道 子	”	”	
”	山 崎 由 加 里	”	”	
”	松 村 朋 子	教務補佐員(文教育学部)	”	

◎非常勤講師

発令年月日	氏 名	異 動 内 容	期 間	備 考
6. 5. 1	小田川 恭 子	講師(文教育学部)	6. 5. 1~7. 3.31	
6. 5.16	クリスティーン・エ リカ・アルバート	講師(附属中学校)	6. 5.16~6.10.14	
6. 5.24	石 田 知 子	講師(文教育学部)	6. 5.24~7. 3.31	
”	王 聰	”	”	
6. 6. 1	藤 田 光 孝	講師(理学部)	6. 6. 1~6. 9.30	筑波大学講師
”	名 取 俊 二	”	”	東京大学教授
”	竹 内 安 智	”	”	宇都宮大学教授
”	森 敏	”	”	東京大学助教授
”	西 田 宏 記	”	”	東京工業大学助教授
6. 6. 8	矢 原 一 郎	”	6. 6. 8~6. 9.30	東京都臨床医学総合研究所 副所長
6. 6. 9	小野澤 由美子	講師(附属小学校)	6. 6. 9~6. 7.14	

学 内 規 則

○平成6年お茶の水女子大学規則第11号

お茶の水女子大学大学院規則の一部を改正する規則を次のとおり定める。

平成6年4月27日

お茶の水女子大学長 太 田 次 郎

お茶の水女子大学大学院規則の一部を改正する規則

お茶の水女子大学大学院規則（昭和38年4月24日制定）の一部を次のように改正する。

第5条理学研究科の項中「生物学専攻」の次に「情報科学専攻」を加える。

第11条第2項中「10単位を」を「修士課程においては10単位を、博士課程においては4単位を」に改める。

第35条中「修士課程」を「本学大学院」に改める。

別表第1（第6条関係）中理学研究科の項を次のように改める。

理 学 研 究 科	数 学 専 攻	10人	20人
	物 理 学 専 攻	10人	20人
	化 学 専 攻	10人	20人
	生 物 学 専 攻	10人	20人
	情 報 科 学 専 攻	12人	24人
	計	52人	104人

別表第3（第3条の3関係）中生物学専攻の次に次の表を加える。

情報科学専攻

授 業 科 目	単位数		
		データベースシステム特論	2
		データベースマシン特論	2
情 報 理 論 特 論	2	科学情報システム特論	2
情 報 構 造 特 論	2	ビジュアルコンピューティング特論	2
エ ン ト ロ ピ ー 特 論	2	人 間 機 械 系 特 論	2
情 報 数 学 特 論	2	文 書 処 理 系 特 論	2
情 報 解 析 学 特 論	2	人 工 知 能 特 論	2
数 理 情 報 学 特 論	2	数 理 科 学 特 論	2
離 散 数 学 特 論	2	計 算 物 理 学 特 論	2
カ テ ゴ リ ー 論 特 論	2	情 報 化 学 特 論	2
確 率 過 程 特 論	2	計 算 化 学 特 論	2
確 率 解 析 特 論	2	自 然 情 報 学 特 論	2
数 値 解 析 特 論	2	環 境 情 報 学 特 論	2
非 数 値 処 理 特 論	2	生 体 情 報 特 論	2
コ ン ピ ュ ー タ ア ー キ テ ク チ ャ 特 論	2	情 報 科 学 特 別 演 習	4
計 算 機 言 語 特 論	2	特 別 研 究	14

別表第6（第12条関係）を次のように改める。

別表第6（第12条関係）

研究科	専攻	免許状の種類	
人文学研究科	哲学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	公民
	史学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	地理歴史
	地理学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	地理歴史
	日本文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国語
	中国文学専攻	中学校教諭専修免許状	中国語
		高等学校教諭専修免許状	国語 中国語
	英文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	英語
	教育学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	地理歴史 公民
小学校教諭専修免許状 幼稚園教諭専修免許状			
舞踊教育学専攻 (舞踊教育学)	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	保健体育	
舞踊教育学専攻 (音楽教育学)		音楽	
理学研究科	数学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	数学
	物理学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	理科
	化学専攻		
	生物学専攻		
	情報科学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	数学
家政学研究科	児童学専攻	小学校教諭専修免許状 幼稚園教諭専修免許状	
	食物学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	家庭
	被服学専攻		
	家庭経営学専攻		

附 則

1. この規則は、平成6年4月27日から施行し、平成6年4月1日から適用する。
2. 理学研究科の収容定員は、改正後の第6条の規定にかかわらず、平成7年3月31日までの間は、次の表のとおりとする。

研究科	専攻	収容定員
理学研究科	数学専攻	20人
	物理学専攻	20人
	化学専攻	20人
	生物学専攻	20人
	情報科学専攻	12人
	計	92人

学 事

○学位記授与式について

(論文提出によるもの)

授与番号	博士の専攻分野の名称	授与年月日	氏名	本籍	論文題目
乙33号	博士 (人文科学)	平成6年6月21日	高野真佐子	京都府	柏木義円研究 —近代日本における天皇制とキリスト教—

**平成7年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）
学 生 募 集 要 項**

入学試験は、 $\left\langle \begin{array}{l} \text{平成6年9月（前期）} \\ \text{平成7年3月（後期）} \end{array} \right\rangle$ に行う。

1. 専攻別募集人員

専攻名	募集人員
比較文化学専攻	16名
人間発達学専攻	13名
人間環境学専攻	9名

2. 出願資格

下記に該当する女子とする。

- (1) 修士の学位を有する者（平成7年3月に修士の学位を取得見込みの者を含む。）
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本研究科において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

3. 出願手続

(1) 出願書類等

1	入学願書	本学所定の用紙
2	修士課程修了（見込）証明書	
3	修士論文等	A
		B
	$\left[\begin{array}{l} \text{①修士課程を修了した者} \\ \text{②修士課程在学者で修士論文を} \\ \text{本研究科に提出可能な者} \end{array} \right]$	$\left[\begin{array}{l} \text{修士課程に在学し9月試験を} \\ \text{受験する者} \end{array} \right]$
	修 士 論 文	修士論文に代わるもの
	2部 ただし、修士論文以外に別主題について公表した論文があり、その論文を主論文とすることを希望するときは、その旨を明記し、添付すること。 また、修士論文提出後の研究により修士論文を補足する研究成果のある場合には、その論文を添付することができる。 提出論文は、試験終了時に返却する。 ※ 修士論文をもたない場合は、これに代わるものを提出すること。	2部 修士論文として提出する予定の研究内容を5,000字以上にまとめること。 (A 4判用紙) ただし、図表は字数に含まれない。 なお、公表された研究成果があればそれを添付することができる。

3	修士論文（主論文）の要旨	修士論文に代わるものの要旨
	6部 2,000字以内、横書き、A4判用紙3枚（図表を含む。）におさめること。	
	研究計画書	研究計画書
	6部 1,000字前後、横書き、A4判用紙2枚におさめること。	
4	調査書	出身大学長又は研究科の長が作成したもの。（本学所定の用紙）
5	推薦書	指導教官又はそれに準ずる者が作成したもの。（本学所定の用紙）
6	健康診断書	保健所等公的医療機関で作成したもの。（本学所定の用紙）
7	検定料	26,000円（郵送の場合は、「郵便為替」とし、受取人欄に「お茶の水女子大学」と明記すること。）
8	受験許可書	在職中の者及び他の大学院に在学中の者は、所属長又は当該大学長が作成したもの。
9	返信用封筒	郵送の場合は、定形郵便用封筒（長形3号）に宛名を明記し350円切手を貼付すること。

注1) 修士論文等は、英語・独語・仏語及び中国語により作成されたものも可。

ただし、日本語の要約を要求することがある。

注2) 修士論文に代わるもので、英語・独語・仏語の場合は、A4判ダブルスペース15～30枚とすること。

注3) 修士論文等のうち、①論文要旨及び②研究計画書は、①・②の順に1組ずつ左肩をホッチキス止めし、6部をクリップでまとめること。

(2) 出願方法

出願書類を一括し、所定の期日までに本学に提出すること。

なお、郵送する場合は書留速達小包とし、封筒に「人間文化研究科入学願書在中」と朱書すること。

4. 出願期間・選考期日・合格発表・願書受付場所

	9月入試（前期）	3月入試（後期）
出願期間 ※	平成6年 8月29日(月)～9月2日(金)	平成7年 2月6日(月)～2月10日(金)
言語・論文試験	9月19日(月)	3月9日(木)
口述試験	9月20日(火)～9月22日(木)	3月10日(金)～3月11日(土)
合格発表 ☆	9月30日(金)	3月15日(木)

※ 土曜日・日曜日は、願書受付は行わない。

受付時間 午前9時～11時30分 午後1時～3時、郵送の場合は、締切日までの消印有効

☆ 正午に人間文化研究科棟1階公示板に合格者氏名を掲示する。

合格通知書は、人間文化研究科事務室で受験票を確認の上、交付する。（合格者の代理人でも差し支えない。）なお、当日、受領できない者については郵送する。

注1) 出願資格(3)に該当する者の出願期間は、次のとおりとする。

9月入試（前期）：平成6年8月23日(火)～8月26日(金)

3月入試（後期）：平成7年1月31日(火)～2月3日(金)

注2) 口述試験は、本学で指定する日時とする。

願書受付場所：お茶の水女子大学 人間文化研究科棟1階事務室

5. 時間割及び試験場所

	言語・論文試験		口述試験
	10:00~11:15	13:00~14:20	
比較文化学専攻 文化構造論講座 日本文化論講座 言語文化論講座 比較芸術論講座 比較社会構造論講座	論 文	言 語 (英語・独語・仏語・ 中国語・日本古典語 から1言語)	口述試験 (主論文及び 研究計画)
科学文化論講座		言 語 (英語)	
人間発達学専攻 発達基礎論講座 発達過程論講座 発達環境論講座 女性学講座		言 語 (英語・独語・仏語・ 中国語・日本古典語 から1言語)	
人間環境学専攻 人間生態論講座 生活環境論講座 環境基礎論講座		言 語 (英語)	

注1) 「論文」は人文・社会系と自然系にわかれているので、いずれかを選択すること。

注2) 言語試験について

1. 選択する言語を入学願書に記入すること。
2. 辞書の使用は、認めない。
3. 「日本古典語」は、古文・日本漢文・古文書とし、3種目の中から2種目を試験場で選択すること。

試験場所：お茶の水女子大学 大学院人間文化研究科棟

6. 入学料及び授業料

入 学 料 260,000円

授 業 料 447,600円 (年額)

7. 入学手続

入学手続関係書類は、平成7年3月中旬に郵送する。

なお、修士課程在学者は、修士の学位を取得した者について入学を認める。

8. 注意事項

- (1) 同一入試日程では、2専攻に出願することはできない。
- (2) 出願手続き後は、いかなる事情があっても、書類の変更及び検定料の払い戻しの要求には応じない。
- (3) 出願について、不明な点がある場合には、人間文化研究科事務室に問い合わせられたい。
- (4) 合格・不合格に関する郵便・電話等による問い合わせには一切応じない。

平成7年度 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）概要

1. 目 的

本学の博士課程は、女性研究者が専門諸分野の基盤に立つ高度の学際的総合研究を行うに必要な創造的能力を育成し、もって、学術水準の向上に寄与することを目的とする。

2. 修業年限 3年（本学の博士課程は、修士課程とは独立の課程である。）

3. 専攻及び入学定員

専攻名	比較文化学専攻	人間発達学専攻	人間環境学専攻	計
入学定員	16	13	9	38

4. 履修方法及び課程の修了

学生は、3年以上在学し、それぞれ専攻で定めた授業科目について所定の単位を修得し、かつ、学位論文審査並びに最終試験に合格しなければならない。

なお、学位論文提出にあたっては、入学試験で受験した言語以外の外国語1ヶ国語（ただし、日本古典語は外国語とはみなさない。）の試験に合格しなければならない。

5. 各専攻及び博士講座の要旨

専 攻 名	講座名	要 旨
比 較 文 化 学 専 攻	文化構造論	文化構造の基礎理論と比較の原理・原論の探求を行うとともに、東洋文化と西洋文化それぞれの要素特質を究明して東西文化の対比対照的考察・交流・交渉関係の解明を行う。具体的実証的東西比較研究と並行して文化一般の構造・機能の本質に迫り、比較文化理論の樹立を目指す。
	日本文化論	日本文学を中心とする日本文化の歴史的・思想的・社会的展開を解明する。すなわち、まず、文学を対象とする研究領域から、歴史・思想・社会・人間関係などの各研究領域を併せて総合的に、日本文化の基本の探求を指向する。
	言語文化論	言語による文化—諸国語の文学を、その言語表現に留意しつつ比較対照し、あるいはその相互影響の跡をたどって、より大きいパースペクティブの中での文学理論を目指す。また、言語の比較対照によって各国語の特質を究明する。
	比較芸術論	芸術の諸分野における歴史的、地域的比較を行うとともに、各分野相互の比較を、単に現象面のみならず、精神面、機能面からも有機的に行い、芸術的創造ないし表現の本質を究明することを目的とする。

	専攻名	講座名	要 旨
		比較社会構造論	東洋・西洋の各地域の文化を社会構造の面からとらえる。すなわち、社会構造、その変動過程、あるいは諸社会の接触交流について、歴史学・地理学・文化人類学など諸科学の視角から具体的にとらえるとともに、これを総合的に比較研究し、さらにこれに基づいて日本の社会構造及び文化構造の基本的性格を解明する。
		科学文化論	比較文化学の一環として科学基礎論並びに科学史の研究を行うとともに、人間文化の諸領域に内在する数理的構造を数学的、情報科学的に研究し、個別文化をつらぬく普遍的な文化構造の解明を目指す。
人間発達学専攻	生物学・心理学・教育学・社会学・文化人類学などの総合的寄与によって、人間発達の諸過程についての実証的研究を行い、ライフ・サイクルの各段階における教育環境、制度、目標などの妥当性と可能性を探究し、人間発達の目標を解明する。	発達基礎論	種としての人間発達の特質を明らかにするために、個体発生・系統発生上の比較考察から出発して、胎児期より老年期に至るまでの発達過程、各発達段階の特性、発達要因などの解明を目指すとともに、歴史的・人間学的考察にたつて総合的な発達目標の検討を行う。
人間発達学専攻	生物学・心理学・教育学・社会学・文化人類学などの総合的寄与によって、人間発達の諸過程についての実証的研究を行い、ライフ・サイクルの各段階における教育環境、制度、目標などの妥当性と可能性を探究し、人間発達の目標を解明する。	発達過程論	生涯にわたる人間発達の過程を、保育・教育・臨床等の実践との関連のもとに研究を行う。心理治療、保育の理論、診断、治療、実践の技法、家庭・集団・文化と人間発達との関連の諸問題を含む。
人間発達学専攻	生物学・心理学・教育学・社会学・文化人類学などの総合的寄与によって、人間発達の諸過程についての実証的研究を行い、ライフ・サイクルの各段階における教育環境、制度、目標などの妥当性と可能性を探究し、人間発達の目標を解明する。	発達環境論	人間発達と社会環境との関連を歴史的・地域的・国際的比較研究によって解明し、発達の各時期に対応する発達課題と教育課題を探究する。人間発達に影響を及ぼす意図的制度的な教育機関、内容及び非制度的な教育機会について、全体的、体系的に研究し、発達の機会を保障していく理論と方法の確立を目指す。
人間発達学専攻	生物学・心理学・教育学・社会学・文化人類学などの総合的寄与によって、人間発達の諸過程についての実証的研究を行い、ライフ・サイクルの各段階における教育環境、制度、目標などの妥当性と可能性を探究し、人間発達の目標を解明する。	女性学	人間社会における女性のあり方及び男性のあり方を特に女性に着目しつつ総合的・学際的に研究する。1970年代以来の女性学関連領域の研究実績を踏まえ、変動する国際社会の現実の中で文化の多様性・個別社会の自律性・個人の価値観の多様性を尊重しつつ発達する人間のあり方を探究することを目指す。
人間環境学専攻	文化の主体をなす人間の生態・行動形式の探究の基礎の上に生活に密着した物質文化の様態を、人間と環境とのかかわり合いという視点より解明を行う。	人間生態論	人間と自然環境との関係を、生物としての人間の面からと、環境の側からとの二つの研究方向からとらえる。それらの相互の関係の対比と関連とを総合化することによって、新しい人間生態学の基礎をつくりあげ、人類の生存のための最適環境を究明する。
人間環境学専攻	文化の主体をなす人間の生態・行動形式の探究の基礎の上に生活に密着した物質文化の様態を、人間と環境とのかかわり合いという視点より解明を行う。	生活環境論	人間と生活環境との関係を、生活それ自身のあり方と生活より派生する諸問題の解決に焦点をおき、生活物質、素材の基本的条件の検討から生活を目的とする環境の最適状態及び諸条件を解明する。
人間環境学専攻	文化の主体をなす人間の生態・行動形式の探究の基礎の上に生活に密着した物質文化の様態を、人間と環境とのかかわり合いという視点より解明を行う。	環境基礎論	人間をとりまく自然環境の構造及びそこに発生する諸現象の精密な研究を行い、それによって自然の本質を究明し環境学の基礎理論の確立に寄与する。

6. 担当専任教官

専攻名	講座名	授業科目名	担当指導教官
比較文化学専攻	文化構造論	構造分析論	教授 宮島 喬
		比較文化論	(未定)
		東洋文化論	教授 佐藤 保子
		西洋文化論	" 中村 弓子
	日本文化論	文化類型論	" 尾田 幸雄
		文化変動論	" 田中 真砂子
		古代文学論	教授 平野 由紀子
中世文学論		" 三木 紀人	
近代文学論		" 浅井 清	
言語文化論	日本文化思想論	助教授 小風 秀雅	
	日本文化起源論	" 小安 田次郎	
	日本文化発達論	教授 安市 古夏	
	日本語教育論	(未定)	
	比較語彙論	教授 宮川 幸久子	
	表現構造論	助教授 内田 正江	
比較芸術論	言語構造論	教授 海老根 静昭	
	日独比較言語文化論	" 石丸 昭二	
	対照言語論	助教授 相原 茂之	
	文学交流論	教授 相本 雅秀	
	比較文学論	" 酒野 島	
	比較舞踊論	教授 片岡 康子	
比較社会構造論	比較音楽論	" 遠藤 秀一郎	
	東洋芸術論	" 藤山 和子	
	比較造形論	" 辻 佐保子	
	西洋造形論	" 板倉 壽郎	
	比較民族音楽論	" 徳丸 吉彦	
科学文化論	生活芸術論	" 小池 三枝	
	東洋社会論	教授 窪添 慶文	
	西洋社会論	" 石川 宏行	
	比較社会論	" 山本 秀行	
科学文化論	地域生態論	助教授 栗原 尚子	
	地域論	教授 内藤 博夫	
	社会構造発達史	教授 内 塚 忠	
	社会学史論	講師 亀井 理輔	
	数理情報論	教授 小川 洋	
	構造数理論	" 小渡 迎 七	
	言語数理論	" 小山 敏子	
	構造認識論	" 細矢 治夫	
情報処理論	" 富永 靖		
確率情報論	(未定)		
生体情報基礎論	教授 石和 貞男		

人間発達学専攻	発達基礎論	人間基礎論 発達論 比較教育思想史論 比較教育障害論 発達障 害発達 論 発達障 害発達 論 発達障 害発達 論 発達障 害発達 論	教授 " " " "	土内飯上春森 屋藤長野日下 賢俊喜浩はるみ 二史一郎道喬み
	発達過程論	人間関係論 発達論 初期発達論 保育差 論 初期 保育 差論 初期 保育 差論 初期 保育 差論	教授 助教授 教授 " "	黒鷹水本内 田野野田 淑光悌和伸 子行一子 子
	発達環境論	発達環境論 教育制度論 成人学習論 家族関係論 集団基礎論	教授 " " " "	宮森小湯加 原川沢賀 隆雍秀夫 修夫剛彦夫
	女性学	ジェンダー形成論 比較ジェンダー論 女性動態論 女性表現活動論 男女平等政策論 国際女性開発論	助教授 教授 " " " "	館原大口黒井塚 かおるひろ子 勇次郎子 節孝子 英子
人間環境学専攻	人間生態論	人間生態論 生理環境論 生命構造論 共生現象論 地域環境論 環境指標論 大気汚染論	教授 " " " " "	富清水村場宮山 田水堆昭兵衛益 (未定)
	生活環境論	生活資源論 衣食生活素材論 食品加工保存論 生物物質代謝論 環境浄化論 栄養制御論 食生活素材論 衣食生活環境論	教授 " " " " " " "	小林彰夫 中島利誠 島田淳子 前田侯子 荒川信彦 本間清一 倉田忠男 五十嵐脩 小川昭二郎
	環境基礎論	環境分析論 環境変動論 環境制御論 境界構造論 数理自然論 散現現象論 統計現象論 科学モデル基礎論	教授 " " " " " " " 助教授	富田中藤厚 田伊松本勲 藤藤原正 真柴島秀 藤柴田文 枝修明子

諸 報

○ 研 修

名 称	実 施 日 時	対 象 者	修 了 者	主 催
平成6年度六大学等 事務系初任職員研修	平成6年5月10日 ～ 5月13日	六大学等(当研修参加機関) に、原則として実施時期から 過去1年間に新規採用された 事務系職員	会計課 用度係員 竹下 良久 施設課 企画係員 宮内 朝彦 施設課 設備係員 佐々木 健 理学部 総務係員 大岡 徹	本 学
平成6年度各省庁地方支分部局等 予算・決算関係事務研修会	平成6年5月19日 ～ 5月20日	地方支分部局等において予 算の執行及び決算に関する事 務に従事する係長以下の職員	会計課 出納係長 近本 政明	関東財務局
平成6年度電子メールシステム講習会 基礎コース	平成6年6月15日	NACSIS-MAIL サービス を初めて利用しようとする 者で所属長が推薦する者	附属図書館 情報管理係長 真野真知子	学術情報センター
平成6年度国立学校事務電算化 基幹要員研修A	平成6年6月13日 ～ 6月17日	事務電算化を所掌する係の 長又は専門職員で、就任後の 期間が原則として2年未満の 者	会計課 用度係長 西原 敏雄	文部省

○ 海外渡航

所 属 ・ 職 名	氏 名	渡 航 先 国	渡 航 目 的	期 間	渡航種目
生活科学部 ・ 助教授	會川 義寛	中華人民共和国	第4回中国中医薬学理論学術会議発 表及び討論のため	6. 4. 29～ 6. 5. 8	外国出張
理 学 部 ・ 助 手	市川 哲彦	アメリカ合衆国	ACM SIGMOD/PODS 共同国際 会議参加	6. 5. 22～ 6. 5. 29	外国出張
生活科学部 ・ 助教授	大塚 恵	アメリカ合衆国	「レトロウィルスに対する抗酸化剤 の影響」に関する研究及び資料収集	6. 5. 29～ 6. 8. 20 (帰国予定)	外国出張
理 学 部 ・ 教 授	平野 恒夫	アメリカ合衆国	第49回オハイオ州立大学国際分子分 光シンポジウム出席・発表及びアイ オワ州立大学における打合せ	6. 6. 11～ 6. 6. 29	外国出張
理 学 部 ・ 教 授	太田 隆夫	アメリカ合衆国	第12回熱物性シンポジウム出席・発 表	6. 6. 19～ 6. 6. 25	外国出張
生活科学部 ・ 助教授	田辺 新一	アメリカ合衆国	アメリカ暖房冷凍空調学会大会シン ポジウムでの講演及び関連施設見学	6. 6. 25～ 6. 7. 4 (帰国予定)	外国出張

所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種目
文教育学部・講師	新井由紀夫	大韓民国	第3回韓日西洋中世史研究集会出席及び研究打合せ	6.5.1～ 6.5.5	海外研修
理学部・講師	最上善広	アメリカ合衆国	第2回ハンガーLリハーサル参加	6.5.8～ 6.5.14	海外研修
生活科学部・教授	湯沢 雍彦	中華人民共和国	中国婚姻管理問題の協議と視察	6.5.22～ 6.5.28	海外研修
文教育学部・教授	宮島 喬	フランス共和国 ドイツ連邦共和国	フランス社会科学高等研究院及び ミュンスター大学の演習に出席のため	6.6.2～ 7.6.20	海外研修
生活科学部・教授	島田 淳子	オランダ王国	第14回国際穀物化学会に出席及び研究発表	6.6.3～ 6.6.11	海外研修
文教育学部・教授	石黒 節子	中華人民共和国	北京公演打合せ及び国立北京舞蹈学院との交流	6.6.9～ 6.6.15	海外研修
理学部・助教授	出口 哲生	カナダ	国際会議 CPIP'94“COLLECTIVE PHENOMENA IN POLYMERS” 出席・発表	6.6.14～ 6.6.19	海外研修
理学部・講師	小木曾啓示	イタリア共和国	高次元複素多様体のスクールコン ファレンス出席・講演	6.6.13～ 6.6.26	海外研修
理学部・教授	小山 敏子	イタリア共和国	アーベル群国際会議に参加	6.6.21～ 6.6.30	海外研修
理学部・教授	藤原 正彦	アメリカ合衆国	ディオファントス問題シンポジウム 出席	6.6.25～ 6.7.8	海外研修

○ 訃 報

瀬野信子名誉教授

瀬野信子氏には病気のため平成6年3月22日逝去されました。享年66才。ここに謹んで哀悼の意を表します。

なお、生前の功績により正四位に叙され、勲三等宝冠章が授与されました。

加藤康順元附属小学校教頭

加藤康順氏には病気のため平成6年4月5日逝去されました。享年78才。ここに謹んで哀悼の意を表します。

なお、生前の功績により従六位に叙され、勲五等瑞宝章が授与されました。

稲葉榮次名誉教授

稲葉榮次氏には病気のため平成6年4月7日逝去されました。享年83才。ここに謹んで哀悼の意を表します。

なお、生前の功績により従三位に叙されました。

村上不三男元理学部事務長

村上不三男氏には病気のため平成6年5月4日逝去されました。享年71才。ここに謹んで哀悼の意を表します。

なお、生前の功績により従三位に叙され、勲五等雙光旭日章が授与されました。

日 誌**◇ 諸 会 議**

- | | |
|---|--|
| 4月25日(月) 学生委員会、国際交流委員会、留学生専門委員会 | 16日(月) 学生委員会、理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会、国立大学事務局長会議（於 学士会館） |
| 26日(火) 部局長会議、入学者選抜方法研究委員会 | 17日(火) 部局長会議、国際交流委員会、主任会議（3学部） |
| 27日(水) 評議会、将来構想検討委員会、研究科会議他、教育実習専門委員会 | 18日(水) 教授会（3学部） |
| 28日(木) 公開講座委員会、技術課管内国立学校等施設整備事務連絡会議（於 東工大学） | 24日(火) 部局長会議、施設計画委員会、国立大学学生部次課長会議（於 医科歯科大学） |
| 5月9日(月) 事務連絡会議、学内LAN整備特別委員会 | 25日(水) 評議会、研究科会議、附属学校教育研究委員会、文部省共済組合主管課長会議（於 東京大学） |
| 10日(火) 拡大部局長会議 | 26日(木) 学内LAN整備特別委員会、国立学校等経理部課長会議（～27日 於 医科歯科大学） |
| 11日(水) カリキュラム委員会、生活科学部自己点検評価委員会、国立7大学理学部事務長会議（～13日 於 新潟大学） | 27日(金) 入学試験委員会、学生委員会 |
| 13日(金) 国際交流委員会留学生専門委員会、国有財産事務担当者連絡会議（於 合同庁舎）、東京地区大学入試センター試験に関する入試担当課長会議（於 都立科学技術大学） | 30日(月) 国立大学体育大会委員会（於 医科歯科大学） |
| | 31日(火) 国立大学附属図書館事務部課長会議（於 医科歯科大学） |
| | 6月1日(水) 共用体育施設運営委員会、文教育学部大学院・学部入試方法検討委員会 |

- 2日(木) 国立大学施設部課長会議(～3日 於
医科歯科大学)
- 3日(金) 事務連絡会議、国際交流委員会留學
生専門委員会
- 7日(火) 部局長会議、主任会議(3学部)
- 8日(水) 教授会(3学部)、生活科学部自己点
検・評価委員会、国立大学一般教育
担当部局協議会理事会
- 9日(木) 国立大学一般教育担当部局協議会総
会(～10日)、国立学校及び施設等機
関等庶務部課長会議(～10日 於 医
科歯科大学)
- 10日(金) 拡大部局長会議、第3回学内LAN
整備特別委員会、国際交流担当課長
会議(於 医科歯科大学)
- 13日(月) 生和会評議会・理事会
- 14日(火) 国立大学協会総会(～15日 於 学士
会館) 予算事務連絡協議会(於 東
京大学)
- 15日(水) 学生委員会、入学者選抜方法研究委
員会
- 16日(木) 国立大学長会議(於 学士会館)
- 17日(金) 国立大学協会事務連絡会議(於 学
士会館)
- 20日(月) 入学者選抜教務関係事務連絡協議会
(於 教育会館)
- 21日(火) 部局長会議、施設計画委員会、附属
学校委員会、リフレッシュ教育担当
課長会議(於 三田共用会議所)
- 22日(水) 評議会、自己点検・評価検討委員会、
カリキュラム委員会
- 23日(木) 国立大学図書館協議会総会(～24日
於 伊豆長岡)、留学生交流研究協議
会(～24日 於 大宮ソニックシティ)

◇行事等

- 4月27日(水) 教育実習説明会
- 28日(木) 平成5年度決算報告会
- 5月11日(水) 教育実習説明会
- 16日(月) 政府調達説明会(於 医科歯科大学)
- 18日(水) 標準報酬等説明会(於 全国都市会
館)
- 23日(月) 名誉教授懇談会

- 24日(火) 学生定期健康診断(～27日)
- 28日(土) 日本教育大学協会附属学校連絡協議
会・全国国立大学附属学校連盟総会
- 30日(月) 学生教職員献血(～31日)
- 6月6日(月) 「中国婦女管理学院」視察団来訪
- 7日(火) 台湾「大学通識教育策劃小組」考察
団来訪
- 16日(木) 教育職員免許状事務説明会(於 東
京都庁)
- 21日(火) 論文博士学位記授与式
- 22日(水) 小石川寮防災訓練

○学報第158号の一部訂正
学報第158号41ページ入学者選抜方法研究委員会委員の表
中、*羽入佐和子と記入している箇所を 羽入佐和子
に、お詫びして訂正します。